

# 杜若

長唄

全詞章

作詞者・作曲者・初演年不詳

変化物「七変化」の第三

形見の花は今ここに

〔三下り〕 在原の跡な隔てそ杜若、花紫のゆかりとて

形見の初冠唐衣、身に添へ持ちし言の葉も、契りし人の数々に

よしや思ひのな、露のしのぶ山、忍びて

通ふ業平の姿は今に見交はす俤、いとし忘れぬ心やな、恋しゆかしき有様を、語るも懐かし

言ぞかし

いとど色ばかりこそ浮世なれ、楽しむもはや、昔男の名をとめし杜若

眺め給へや都人、まことは花の精なりと、見えつ隠れつなりにけり